2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	権利擁護を支える法制度	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	3年	学期及び曜時限	前期	教室名	1204教室
担当教員	高岡　克行	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

成年後見制度をはじめとする権利擁護に係る法制度について実践的に理解し，それを相談援助活動等に活かすことができる。

《成績評価の方法と基準》

科目修了試験:70%　出席評価点:20%　平常評価点:10%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:『福祉と法学・法教育』 株式会社滋慶出版
参考図書:『最新・社会福祉士養成講座19　権利擁護を支える法制度 第2版』 中央法規出版

《授業外における学習方法》

授業中に全6回実施する小テストで正解できなかったところを中心に復習し，すべての選択肢について，なぜ正しく，どこが誤っているのかを明らかにしておく。

《履修に当たっての留意点》

電子政府のホームページなどを利用して，法律の原文に触れる努力を惜しまないこと。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	親族，扶養，親権について説明できるようになる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第1章　民法の親族法 親族，扶養，親権について概説する。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	婚姻，実子と養子について説明できるようになる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。 ・主要判例について，最高裁判所のホームページ等で調べておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第1章　民法の親族法 婚姻，実子と養子について概説する。		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	親族，扶養，親権，婚姻，実子と養子について説明できるようになる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，要点をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第1章　民法の親族法 親族法のまとめを行い，小テストを実施する。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	法定相続について説明できるようになる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。 ・主要判例について，最高裁判所のホームページ等で調べておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第2章　民法の相続法 法定相続について概説する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	遺言相続について説明できるようになる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第2章　民法の相続法 遺言相続について概説する。		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	法定相続と遺言相続について説明できるようになる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，要点をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第2章　民法の相続法 相続法のまとめを行い，小テストを実施する。		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	「委任契約」と「代理」について説明できるようになる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第3章　委任契約・代理・任意後見契約 任意後見契約を理解する上で必須の概念である「委任契約」と「代理」について解説する。		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	任意後見契約について説明できるようになる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第3章　委任契約・代理・任意後見契約 成年後見制度の大きな柱のひとつである任意後見契約について説明する。併せて小テストを実施する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	法定後見制度について説明できるようになる。	・教科書	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第4章　自然人，法定後見制度 権利能力，意思能力，行為能力の3つの概念を整理したうえで，後見人等の選任や職務について解説する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	法定後見制度について説明できるようになる。	・教科書	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第4章　自然人，法定後見制度 後見人等の同意権・取消権，代理権について検討する。		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	法定後見制度について説明できるようになる。	・教科書	・教科書の該当する章を熟読し，要点をまとめておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第4章　自然人，法定後見制度 行為能力に係る制度としての法定後見制度(成年後見，保佐，補助)のまとめを行い，小テストを実施する。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	「成年後見関係事件の概況」について説明できるようになる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第5章　成年後見制度・補遺，日常生活自立支援事業 「任意後見契約」と「法定後見制度」の優先関係、「成年後見関係事件の概況」など、いくつかの論点を補足する。		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	日常生活自立支援事業や成年後見制度利用支援事業について説明できるようになる。	・教科書 ・配布プリント	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第5章　成年後見制度・補遺，日常生活自立支援事業 日常生活自立支援事業と成年後見制度利用支援事業について解説する。併せて小テストを実施する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	家庭裁判所の役割について説明できるようになる。	・教科書	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第6章　権利擁護に係る組織・団体 権利擁護に係る組織や団体について整理する。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	法制度についての正確な理解に基いて，権利擁護活動を実践できるようになる。	・教科書	・教科書の該当する章を熟読し，疑問点を整理しておく。
		各コマにおける授業予定	教科書第1編第6章　権利擁護に係る組織・団体 権利擁護という観点から「児童虐待防止法」「高齢者虐待防止法」「障害者虐待防止法」の三法を取り上げて，横断的な比較を行う。併せて小テストを実施する。		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	社会福祉調査の基礎	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	3年	学期及び曜時限	後期	教室名	1204教室
担当教員	大澤　裕司	実務経験とその関連資格	宝塚市福祉課情緒障害児療育施設任用ケースワーカー(1984～1985)、神戸生命倫理研究会(運営委員)における医療政策調査研究(1988～2014)		

《授業科目における学習内容》

社会調査の分野、歴史、制度的枠組み(統計法、個人情報保護法等)をふまえて、量的調査、質的調査の手法を学び、4年次での国家試験合格水準の知識を習得する

《成績評価の方法と基準》

期末の筆記試験、平常点、出席点で成績判定する。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『最新・社会福祉士養成講座　社会福祉調査の基礎』 中央法規出版

《授業外における学習方法》

1. 翌週に習熟度を確認する小テストを行うので、教科書の該当範囲(1節)を復習する習慣をつける。2. ニュース等の報道に接して世論調査の結果を自分なりに解釈し、医療・介護事故の予防、事後処理のしかたを考える習慣をつけることが望ましい

《履修に当たっての留意点》

統計的な技法や用語におびえることなく、事実究明のための調査のさまざまな手法を知り、クライエントの生活支援、社会問題の分析・解決のためのリサーチととらえて、広い視野で勉学に励むこと

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	調査リテラシーの基本的な考え方について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	過去の国家試験に目を通しておく
		各コマにおける授業予定	国家試験の出題傾向　質問紙調査の実例(演習)		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	各種調査の中での社会調査の位置づけについて説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	調査の種類(統計調査、マーケティングリサーチ、世論調査等) 社会調査の意義、認識と実践の関係		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	政府の統計の法的位置づけ、準則について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	調査を取り巻く環境(統計法改正点、国勢調査の現状)		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	サンプリングの注意点について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	全数調査と標本調査　標本抽出の技法　区間推定と点推定　横断調査と縦断調査		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象の数的な表現のしかたの基礎について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	記述統計とは何か　基本統計量の種類(平均、偏差、分散、標準偏差)		

授業の方法		内　　容		教科書、配布プリント材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	測定の意味を理解し、妥当性・信頼性の高い指標の作成法を習得する。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	変数と尺度（名義尺度、順序尺度、間隔尺度、比例尺度）		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	グラフィックな集計結果の表現方法について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	記述統計の表現（ヒストグラム、散布図、箱ひげ図、バブルチャート）		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	2変数の相関の強さを算出する手法を身につける	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	クロス集計の注意点、点相関係数・ピアソン相関係数の計算演習		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	仮説の検定について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	統計的検定　相関関係と因果関係の違い、信頼区間・有意水準の設定、帰無仮説と対立仮説の設定		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	カウンセリング面接と調査面接の違いについて説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	面接法（構造化、集団面接）		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	対象者の行動、動作、生活実態の客観的把握法について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	参与観察・非参与観察、条件の統制、フィールドワークの留意点		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	軽量テクスト分析の基礎的な部分について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	質的データの分析手法（トランスクリプト作成、切片化とコーディング、グラウンデッドセオリー・アプローチ、KJ法）		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	調査情報の保護と調査者の倫理について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	小テストを意識した当日の復習、専門用語の習得
		各コマにおける授業予定	社会福祉士倫理綱領、個人情報保護法の目的		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	調査情報の活用法について説明できるようになる。	教科書、配布プリント	プレテストを持ち帰って調べ合い学習
		各コマにおける授業予定	ヒヤリハット事例の検討、ナレッジマネージメントの理念		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会調査の基礎の理解が深まり、実践できるようになる。	教科書	テキストのこれまでの講義で取り上げた部分の箇所を読み、復習する
		各コマにおける授業予定	まとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	基礎分野	授業の方法	演習
科目名	ボランティア演習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	3年 地域福祉専攻	学期及び曜時限	前期 金曜1・2限	教室名	1202教室
担当教員	鈴木 かおり	実務経験とその関連資格	【鈴木】ケアマネジャー業務に従事。ケアマネジャー、社会福祉士。		

《授業科目における学習内容》

さまざまな体験を通じて視野を広げ、社会で役立つスキルを身につける。考える力や発表能力を養う。
縦割りの特色を活かし、他学年との交流を図る。企画力や自発性を引き出す。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業態度) 10点　　出席点 20点　　定期テスト 70点　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

レジュメ、演習教材

《授業外における学習方法》

さまざまなボランティアに参加してみる　関心を持ったテーマについて調べる

《履修に当たっての留意点》

できるだけ遅刻・欠席をしないこと。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	ボランティア活動の4原則について説明できるようになる	レジュメ	ボランティア活動の4原則について予習しておく
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション、自己紹介		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動で主体的な学びにつなげる行動ができるようになる。	レジュメ	ボランティア活動ハンドブックを一読しておく
		各コマにおける授業予定	ボランティア活動の意義・目的		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	バリアフリーについて説明できるようになる。	レジュメ 演習教材	バリアフリー展の資料をまとめておく
		各コマにおける授業予定	バリアフリー展報告、ライフサイクルゲーム		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	バリアフリーについて説明できるようになる。	レジュメ 演習教材	バリアフリー展の資料をまとめておく
		各コマにおける授業予定	バリアフリー展報告、ライフサイクルゲーム		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	学校周辺地区の避難経路について説明できるようになる。	レジュメ 演習教材	まち歩き実施地区のマップを見ておく
		各コマにおける授業予定	避難訓練を兼ねたまち歩き		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	学校周辺地区の避難経路について説明できるようになる。	レジュメ 演習教材	まち歩き実施地区のマップを見ておく
		各コマにおける授業予定	避難訓練を兼ねたまち歩き		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	現場実習での学びの視点について説明できるようになる。	レジュメ 演習教材	就職フェアの参加事業所のHPを調べておく
		各コマにおける授業予定	イベント準備と実習対策／クロスロードゲーム		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	現場実習での学びの視点について説明できるようになる。	レジュメ 演習教材	就職フェアの参加事業所のHPを調べておく
		各コマにおける授業予定	イベント準備と実習対策／クロスロードゲーム		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	業界研究を深め、目指す領域について説明できるようになる。	レジュメ 演習教材	就職フェアでまわった事業所の資料をまとめておく
		各コマにおける授業予定	就職フェア報告		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	業界研究を深め、目指す領域について説明できるようになる。	レジュメ 演習教材	就職フェアでまわった事業所の資料をまとめておく
		各コマにおける授業予定	就職フェア報告		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	介護現場での食事形態、避難所での食事について説明できるようになる。	※調理実習室使用	調理の基本を調べておく
		各コマにおける授業予定	調理実習		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	介護現場での食事形態、避難所での食事について説明できるようになる。	※調理実習室使用	調理の基本を調べておく
		各コマにおける授業予定	調理実習		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	アロマセラピーの効果について説明できるようになる。	PC、プロジェクター、スピーカー	エクササイズの動画を見ておく
		各コマにおける授業予定	エクササイズ、アロマセラピー		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	アロマセラピーの効果について説明できるようになる。	PC、プロジェクター、スピーカー	エクササイズの動画を見ておく
		各コマにおける授業予定	エクササイズ、アロマセラピー		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	映画を通じて、自身の福祉観を再認識し、説明できるようになる。	PC、プロジェクター、スピーカー	映画のシーンで、自分ならどのような関わりをするか考える
		各コマにおける授業予定	福祉映画		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	国際福祉論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時限	秋季	教室名	
担当教員	山田　健太	実務経験とその関連資格	【実務経験】 病院(急性期・回復期)医療ソーシャルワーカー、通所リハビリテーション支援相談員 【資格】 社会福祉士			

《授業科目における学習内容》

アメリカ研修プログラムを通し、アメリカにおける大学の学習及び福祉・医療関連施設等の実態を体験し、幅広い視野を養う。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 30点　　海外研修振り返りレポート 70点　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

レジュメ

《授業外における学習方法》

アメリカの福祉・医療制度について事前学習を深めておきましょう。
アメリカが抱える独自の課題、日本と共通する課題について調べておきましょう。

《履修に当たっての留意点》

現地の大学での講義はすべて英語で行われます。翻訳担当者は常駐していますが、より学びを深めるために、日常的な英会話、福祉・医療の専門的な語句の英語表記について事前に学習しておきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	米国の社会福祉の歴史、現状、展望、職務範囲について説明できるようになる。	レジュメ	アメリカの福祉・医療制度について事前に調べておく
		各コマにおける授業予定	米国の社会福祉の変遷		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	米国における若者の薬物、ギャング、暴力問題の現状と警察及び社会福祉士の関わりについて説明できるようになる。	レジュメ	講義内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	アメリカの社会福祉士		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカの精神科医療について説明できるようになる。	レジュメ	見学内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	施設見学(パットン州立精神科病院)		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカの精神科医療について説明できるようになる。	レジュメ	見学内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	施設見学(パットン州立精神科病院)		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカの精神科医療について説明できるようになる。	レジュメ	見学内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	施設見学(パットン州立精神科病院)		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	老年学と米国の現状について説明できるようになる。	レジュメ	講義内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	アメリカの高齢者事情		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	海外のボランティア活動について説明できるようになる。	レジュメ	講義内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	ボランティア		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	現地の大学生のボランティア活動の実際について説明できるようになる。	レジュメ	講義内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	ボランティア		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	英語での発表を通して、語学力が向上し、コミュニケーション能力が養われる。	発表用資料	英語での発表練習をしておく
		各コマにおける授業予定	学生発表		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	英語での発表を通して、語学力が向上し、コミュニケーション能力が養われる。	発表用資料	英語での発表練習をしておく
		各コマにおける授業予定	学生発表		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	異文化におけるコミュニケーションツールの活用ができるようになる。	文化交流用物品（書道セットなど）	分化交流で使用する物品準備をする
		各コマにおける授業予定	文化交流会準備		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	異文化におけるコミュニケーションツールの活用ができるようになる。	文化交流用物品（書道セットなど）	分化交流で使用する物品準備をする
		各コマにおける授業予定	文化交流会準備		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカの学生との交流を深め、非言語でのコミュニケーションが図れるようになる。	文化交流用物品（書道セットなど）	分化交流で使用する物品準備をする
		各コマにおける授業予定	文化交流会		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカの学生との交流を深め、非言語でのコミュニケーションが図れるようになる。	文化交流用物品（書道セットなど）	分化交流で使用する物品準備をする
		各コマにおける授業予定	文化交流会		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカでのソーシャルワークについて説明できるようになる。	レジュメ	講義内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	振り返り		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	ボランティア演習	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (2) 時間(単位)
対象学年	2・3年 地域福祉専攻	学期及び曜時限	後期	教室名	1204教室など
担当教員	木寺 由美・鈴木 香	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

さまざまな体験を通じて視野を広げ、社会で役立つスキルを身につける。考える力や発表能力を養う。
縦割りの特色を活かし、他学年との交流を図る。企画力や自発性を引き出す。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業態度) 10点　　出席点 20点　　定期テスト 70点　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

レジュメ、活動報告

《授業外における学習方法》

さまざまなボランティアに参加してみる　関心を持ったテーマについて調べる

《履修に当たっての留意点》

できるだけ遅刻・欠席をしないこと。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	後期の授業終了後の成長した自分をイメージできるようになる。	レジュメ 昨年の研修報告書	前期の授業を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	後期の抱負①		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	後期の授業終了後の成長した自分をイメージできるようになる。	レジュメ 昨年の研修報告書	前期の授業を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	後期の抱負②		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	研修を通じて学んだこと、感じたことを言語化できるようになる。	レジュメ 昨年の研修報告書	宿泊研修の活動記録をまとめておく
		各コマにおける授業予定	一泊研修や基礎実習の報告		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	研修を通じて学んだこと、感じたことを言語化できるようになる。	レジュメ 昨年の研修報告書	宿泊研修の活動記録をまとめておく
		各コマにおける授業予定	一泊研修や基礎実習の報告		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	分化交流の企画立案ができる	レジュメ 昨年の活動報告書	分化交流で実践したいことを各自考えておく
		各コマにおける授業予定	アメリカ研修に向けて		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	分化交流の企画立案ができるようになる。	レジュメ 昨年の活動報告書	分化交流で実践したいことを各自考えておく
		各コマにおける授業予定	アメリカ研修に向けて		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	映画を通じて、自身の福祉観を語れるようになる。	PC、プロジェクター、スピーカー	興味を持っている地域活動について調べておく
		各コマにおける授業予定	福祉映画		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	映画を通じて、自身の福祉観を語れるようになる。	PC、プロジェクター、スピーカー	興味を持っている地域活動について調べておく
		各コマにおける授業予定	福祉映画		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	研修を通じて学んだこと、感じたことを言語化できるようになる。	活動報告書	海外研修の活動報告をまとめておく
		各コマにおける授業予定	海外研修報告、アロマケア		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	研修を通じて学んだこと、感じたことを言語化できるようになる。	活動報告書	海外研修の活動報告をまとめておく
		各コマにおける授業予定	海外研修報告、アロマケア		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動実践と国家試験の学習を結びつけることができるようになる。	レジュメ	地域福祉の理論と方法の国家試験の過去問をJ-webで解く
		各コマにおける授業予定	試験対策		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動実践と国家試験の学習を結びつけることができるようになる。	レジュメ	地域福祉の理論と方法の国家試験の過去問をJ-webで解く
		各コマにおける授業予定	試験対策		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	社会福祉士に必要な介護技術を理解し、社会福祉士が介護について学ぶ意義について考えを述べることができるようになる。	レジュメ	介護についてテキストで復習しておく
		各コマにおける授業予定	介護の日にちなんで		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	社会福祉士に必要な介護技術を理解し、社会福祉士が介護について学ぶ意義について考えを述べることができるようになる。	レジュメ	介護についてテキストで復習しておく
		各コマにおける授業予定	介護の日にちなんで		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	興味あるテーマでの学びを社会福祉士が実践する技術と結びつけることができるようになる。	レジュメ ワークシート	興味を持っている地域活動について調べておく
		各コマにおける授業予定	リクエストテーマ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	実習
科目名	ソーシャルワーク実習(社会福祉士)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	240 (5) 時間(単位)
対象学年	2年・3年		学期及び曜時限	通年 2年から3年前期	教室名	
担当教員	山田　健太	実務経験とその関連資格	【実務経験】 病院(急性期・回復期)医療ソーシャルワーカー、通所リハビリテーション支援相談員 【資格】 社会福祉士			

《授業科目における学習内容》

社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養う。地域における多様な福祉ニーズや多職種・多機関協働、社会資源の開発などの実態を学ぶ。以下の到達目標について、各実習施設における実習計画書に沿って、実習指導者による指導を受け理解を図る。

《成績評価の方法と基準》

2年次の9月と3年次の6月に、機能の異なる2か所以上の指定実習施設で、60時間(1日7.5時間×8日間)と180時間以上(1日7.5時間×24日間)、合計240時間の実習を行います。相談援助業務の一連の過程の学習に加え、複数の機関・事業所や地域との関係性を含めた包括的な支援について学習する。実習態度や取り組み姿勢と実習日誌に付随する提出物(40%)、実習配属先の総合評価(60%)をもとに評価します。

《使用教材(教科書)及び参考図書》

ソーシャルワーク実習・ソーシャルワーク実習指導(中央法規)ほか、授業内で適宜プリント配布します。

《授業外における学習方法》

ボランティア実習や現場でのアルバイト、当事者の方との交流等でできるだけ福祉の現場を知っておくこと。

《履修に当たっての留意点》

実習時間以外にも、記録の作成、実習課題に対する自宅学習を行い、実習に活かしていくことが必要である。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	実習形式	授業を通じての到達目標	1)ソーシャルワークの実践に必要な知識と技術を統合し、社会福祉士としての価値と倫理に基づく支援を行うための実践能力を養えるようになる。	実習要綱 実習分野に係る教科書	実習指導配布資料、教科書の復習と 実習日誌記入
		各コマにおける授業予定	①クライエント等と人間関係を形成するための基本的なコミュニケーションをとることができる。その人や状況に合わせて挨拶や自己紹介、声かけを行う②その人や状況に合わせて言語コミュニケーションと非言語コミュニケーションを使い分ける		
第2回	実習形式	授業を通じての到達目標	2)支援を必要とする人や地域の状況を理解し、その生活上のニーズについて把握できるようになる。	実習要綱 実習分野に係る教科書	実習指導配布資料、教科書の復習と 実習日誌記入
		各コマにおける授業予定	①クライエント等との信頼関係を構築する際の留意点や方法を説明することができる②クライエント等に対して実習生としての立場や役割を理解できるよう説明する		
第3回	実習形式	授業を通じての到達目標	3)生活上の課題(ニーズ)に対応するため、支援を必要とする人の内的資源やフォーマル・インフォーマルな社会資源を活用した支援計画の作成、実施及び評価を行えるようになる。	実習要綱 実習分野に係る教科書	実習指導配布資料、教科書の復習と 実習日誌記入
		各コマにおける授業予定	①バイオ・サイコ・ソーシャルの側面からクライエント等の客観的、主観的情報を系統的に収集する ②クライエント、グループ、地域住民などのアセスメントを実施し、ニーズを明確にする		
第4回	実習形式	授業を通じての到達目標	4)施設・機関等が地域社会の中で果たす役割を実践的に理解できるようになる。	実習要綱 実習分野に係る教科書	実習指導配布資料、教科書の復習と 実習日誌記入
		各コマにおける授業予定	①地域アセスメントの意義や方法、活用可能なツールについて説明することができる ②地域住民の生活の状況と地域及び地域を取り巻く環境との関係を説明することができる		
第5回	実習形式	授業を通じての到達目標	5)利用者やその関係者への権利擁護ならびにエンパワメントを含む実践を行い評価できるようになる。	実習要綱 実習分野に係る教科書	実習指導配布資料、教科書の復習と 実習日誌記入
		各コマにおける授業予定	①クライエント及び多様な人々を理解し、尊厳や価値観、信条、生活習慣等を尊重した言動をとる ②クライエント及び多様な人々の持つ「強み・力」(ストレングス)と課題を把握する		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	実習形式	授業を通じての到達目標	6）多職種連携及びチームアプローチの実践的理解ができるようになる。	実習要綱 実習分野に係る教科書	実習指導配布資料、教科書の復習と 実習日誌記入
		各コマにおける授業予定	①事例検討会・ケースカンファレンス等に同席し、出席している各機関、施設の視点や連携するための工夫等について学ぶ ②職種ごとの業務の特徴やアセスメントの視点の違いについて学ぶ		
第7回	実習形式	授業を通じての到達目標	7）地域における分野横断的・業種横断的な関係形成と社会資源の活用・調整・開発に関する理解できるようになる。	実習要綱 実習分野に係る教科書	実習指導配布資料、教科書の復習と 実習日誌記入
		各コマにおける授業予定	実習施設の事業やサービスを中心として、分野横断的・業種横断的な社会資源との関係性について明らかにし説明する		
第8回	実習形式	授業を通じての到達目標	8）施設・事業者・機関・団体等の経営やサービスの管理運営の実際を理解できるようになる。	実習要綱 実習分野に係る教科書	実習指導配布資料、教科書の復習と 実習日誌記入
		各コマにおける授業予定	実習施設の理事会や評議員会など、意思を決定する組織体の機能について説明する		
第9回	実習形式	授業を通じての到達目標	9）社会福祉士としての職業倫理と組織の一員としての役割と責任を理解できるようになる。	実習要綱 実習分野に係る教科書	実習指導配布資料、教科書の復習と 実習日誌記入
		各コマにおける授業予定	実習指導者の業務を観察し、クライエントや地域住民、関係者との関り場面、問題解決過程、チームアプローチ場面を振り返り、倫理判断に基づく行為を発見、抽出し、説明する		
第10回	実習形式	授業を通じての到達目標	10）ソーシャルワーク実践に求められる技術をを実践の場で理解できるようになる。	実習要綱 実習分野に係る教科書	実習指導配布資料、教科書の復習と 実習日誌記入
		各コマにおける授業予定	アウトリーチ、ネットワーキング、コーディネーション、ネゴシエーション、ファシリテーション、プレゼンテーション、ソーシャルアクションの具体的場面に気づき、説明する		
第11回	実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第12回	実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第13回	実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第14回	実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			
第15回	実習形式	授業を通じての到達目標			
		各コマにおける授業予定			

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	国際福祉論		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時限	秋季	教室名	
担当教員	山田　健太	実務経験とその関連資格	【実務経験】 病院(急性期・回復期)医療ソーシャルワーカー、通所リハビリテーション支援相談員 【資格】 社会福祉士			

《授業科目における学習内容》

アメリカ研修プログラムを通し、アメリカにおける大学の学習及び福祉・医療関連施設等の実態を体験し、幅広い視野を養う。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 30点　　海外研修振り返りレポート 70点　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

レジュメ

《授業外における学習方法》

アメリカの福祉・医療制度について事前学習を深めておきましょう。
アメリカが抱える独自の課題、日本と共通する課題について調べておきましょう。

《履修に当たっての留意点》

現地の大学での講義はすべて英語で行われます。翻訳担当者は常駐していますが、より学びを深めるために、日常的な英会話、福祉・医療の専門的な語句の英語表記について事前に学習しておきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	米国の社会福祉の歴史、現状、展望、職務範囲について説明できるようになる。	レジュメ	アメリカの福祉・医療制度について事前に調べておく
		各コマにおける授業予定	米国の社会福祉の変遷		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	米国における若者の薬物、ギャング、暴力問題の現状と警察及び社会福祉士の関わりについて説明できるようになる。	レジュメ	講義内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	アメリカの社会福祉士		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカの精神科医療について説明できるようになる。	レジュメ	見学内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	施設見学(パットン州立精神科病院)		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカの精神科医療について説明できるようになる。	レジュメ	見学内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	施設見学(パットン州立精神科病院)		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカの精神科医療について説明できるようになる。	レジュメ	見学内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	施設見学(パットン州立精神科病院)		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	老年学と米国の現状について説明できるようになる。	レジュメ	講義内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	アメリカの高齢者事情		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	現地の大学生のボランティア活動について説明できるようになる。	レジュメ	講義内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	ボランティア		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	英語での発表を実践し、語学力が向上する。	発表用資料	英語での発表練習をしておく
		各コマにおける授業予定	学生発表		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	英語での発表を通して、語学力が向上し、コミュニケーション能力が養われる。	発表用資料	英語での発表練習をしておく
		各コマにおける授業予定	学生発表		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカの学生との交流を深め、非言語でのコミュニケーションが図れるようになる。	文化交流用物品（書道セットなど）	分化交流で使用する物品準備をする
		各コマにおける授業予定	文化交流会		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	米国における認知症患者へのサポートシステムについて説明できるようになる。	レジュメ	講義内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	アメリカの認知症について		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	医療社会福祉（医療費負担適正化法）について説明できるようになる。	レジュメ	講義内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	医療社会福祉（医療費負担適正化法）		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	社会福祉事務所の機能と役割について説明できるようになる。	レジュメ	講義内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	サンバーナーディーノ社会福祉事務所（郡行動保健所）		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカの学童について説明できるようになる。	アクティビティ道具類	子ども達が喜ぶ内容のアクティビティを考えておく
		各コマにおける授業予定	施設見学（ボーイズ＆ガールズクラブ）		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	アメリカでのソーシャルワークについての学びを振り返り、日本とアメリカのソーシャルワーカーそれぞれの専門性について説明できるようになる。	レジュメ	講義内容を振り返りまとめておく
		各コマにおける授業予定	振り返り		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	社会福祉特講		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	3年 地域福祉専攻		学期及び曜時限	前期 火曜1限	教室名	1202教室
担当教員	中谷 幸子	実務経験とその関連資格				

《授業科目における学習内容》

社会福祉士国家試験に向けて、「障害者に対する支援と障害者自立支援制度」の理解を深める。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 10点　　出席点 20点　　定期テスト 70点　(100点満点)
ボランティア活動に必要な知識・技術の習得度合いについて評価する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

社会福祉士国家試験過去問解説集(中央法規)、社会福祉士国家試験のためのレビューブック(メディックメディア)
その他随時、講義にてレジュメを配布

《授業外における学習方法》

問題を解くことになれるよう、過去問を積極的に解いていってください

《履修に当たっての留意点》

初めての国家試験対策の授業ですので、じっくり問題を解いて、不明点を洗い出し、自分なりの勉強方法を確立していくようにしてください

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	障害者の生活実態と社会情勢に関する問題が解けるようになる。	社会福祉士国家試験過去問解説集(中央法規)、社会福祉士国家試験のためのレビューブック(メディックメディア)	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	障害、障害者の法的定義、障害者に関わる社会調査		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	障害者制度の発展過程に関する問題が解けるようになる。	社会福祉士国家試験過去問解説集(中央法規)、社会福祉士国家試験のためのレビューブック(メディックメディア)	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	ノーマライゼーション、インクルージョン、障害者計画		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	障害者に関する条約、法律に関する問題が解けるようになる。	社会福祉士国家試験過去問解説集(中央法規)、社会福祉士国家試験のためのレビューブック(メディックメディア)	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	障害者権利条約、障害者差別解消法、障害者雇用促進法		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	障害者基本法に関する問題が解けるようになる。	社会福祉士国家試験過去問解説集(中央法規)、社会福祉士国家試験のためのレビューブック(メディックメディア)	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	障害者基本法、障害者週間		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	障害者総合支援法に関する問題が解けるようになる①	社会福祉士国家試験過去問解説集(中央法規)、社会福祉士国家試験のためのレビューブック(メディックメディア)	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	措置制度、支援費制度、障害者自立支援法		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	障害者総合支援法に関する問題が解けるようになる②	社会福祉士国家試験過去問解説集（中央法規）、社会福祉士国家試験のためのレビューブック（メディックメディア）	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	障害者総合支援法の概要、自立支援給付、訓練等給付		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	障害者総合支援法に関する問題が解けるようになる③	社会福祉士国家試験過去問解説集（中央法規）、社会福祉士国家試験のためのレビューブック（メディックメディア）	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	地域生活支援事業と支援の流れ		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	障害者総合支援法における組織及び団体の役割に関する問題が解けるようになる。	社会福祉士国家試験過去問解説集（中央法規）、社会福祉士国家試験のためのレビューブック（メディックメディア）	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	国の役割、都道府県の役割、市町村の役割		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	障害者総合支援法における事業所と専門職の役割に関する問題が解けるようになる。	社会福祉士国家試験過去問解説集（中央法規）、社会福祉士国家試験のためのレビューブック（メディックメディア）	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	事業所の役割、専門職の役割、他職種連携		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	身体障害者福祉に関する問題が解けるようになる。	社会福祉士国家試験過去問解説集（中央法規）、社会福祉士国家試験のためのレビューブック（メディックメディア）	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	身体障害者福祉法、身体障害者更生相談所、身体障害者手帳		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	知的障害者福祉に関する問題が解けるようになる。	社会福祉士国家試験過去問解説集（中央法規）、社会福祉士国家試験のためのレビューブック（メディックメディア）	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	知的障害者福祉法、知的障害者更生相談所、療育手帳		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	精神保健及び精神障害者福祉に関する問題が解けるようになる。	社会福祉士国家試験過去問解説集（中央法規）、社会福祉士国家試験のためのレビューブック（メディックメディア）	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	精神障害者福祉法、精神障害者保健福祉手帳、入院制度		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	発達障害者福祉に関する問題が解けるようになる。	社会福祉士国家試験過去問解説集（中央法規）、社会福祉士国家試験のためのレビューブック（メディックメディア）	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	発達障害者福祉法、発達障害者支援センター		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	障害者虐待に関する問題が解けるようになる。	社会福祉士国家試験過去問解説集（中央法規）、社会福祉士国家試験のためのレビューブック（メディックメディア）	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	障害者虐待防止法、バリアフリー法、身体障害者補助犬法		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	障害者に関する割引、免税制度に関する問題が解けるようになる。	社会福祉士国家試験過去問解説集（中央法規）、社会福祉士国家試験のためのレビューブック（メディックメディア）	該当項目の過去問を解いて解説を読み、わからないところをチェックしておいてください
		各コマにおける授業予定	割引、免税の種類、その他優遇制度等		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	社会保障		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時限	後期	教室名	1204教室
担当教員	今井　孝司	実務経験とその関連資格	龍谷大学大学院経済学研究科にて修士を取得。修士論文題名:「台湾の高齢者福祉」論で修士を取得。			

《授業科目における学習内容》

社会保障に関する重要項目として諸外国の社会保障制度、社会保障が当面する課題を把握する。さらに付帯事項として社会福祉制度全般と民間保険の役割について理解する。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:70%
2. 小テスト・授業態度:10%
3. 授業参加度:20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『最新・社会福祉士養成講座　社会保障 第2版』中央法規出版

《授業外における学習方法》

少子・高齢社会の進行により発生する問題点をとり上げた新聞・ネットニュースなどの情報にたえず留意しておくこと。必要と思われる事項については切り抜き・スクラップ、またはタブレットやコンピュータ上に専用のファイルを作成し、保存・管理をしておくことが望まれる。

《履修に当たっての留意点》

社会保障は社会福祉領域の中でも経済学的要素が強い科目です。授業内容は社会保障の根底から講義しますが、ここで得た知識は国家試験の出題について対応できる実力が形成されるものです。授業内容は難しく感じるかも知れませんが、しっかりついてきてください。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	医療保障制度のしくみについて説明できるようになる。	配布プリント	テキストを一読しておく
		各コマにおける授業予定	医療保険制度の沿革と概要		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	被用者保険の範囲を把握し給付・費用負担の概要について説明できるようになる。	指定テキスト	前回配布プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	健康保険と共済制度		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	国民健康保険の目的・対象・費用負担の概要について説明できるようになる。	指定テキスト	前回配布プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	国民健康保険制度		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期高齢者制度設立の背景と運用概要について説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	後期高齢者医療制度		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	国民医療費増大の問題を理解し今後の医療提供体制の方向性について説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく 第1章の小テスト実施の準備をしておく
		各コマにおける授業予定	国民医療費と医療をめぐる最近の動向 小テスト実施		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度成立の背景を理解し、制度運営の概要について説明できるようになる。	指定テキスト	前回配布プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	介護保障創設の経緯と制度の概要		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	介護保険制度の内容を把握し最近の動向について説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	介護保険制度の概要・最近の動向		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	労働保険制度の成立背景と概要を理解し、労災保険のしくみと給付について説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく 第7章の小テスト実施の準備をしておく
		各コマにおける授業予定	労働保険制度の概要・労働者災害補償保険 小テスト実施		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	雇用保険の仕組みと給付について説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	雇用保険		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	経済状況と労働者支援制度の関連性と最近の動向について説明できるようになる。	指定テキスト	前回配布プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく 第8章の小テスト実施の準備をしておく
		各コマにおける授業予定	求職者支援制度・労働保険制度をめぐる最近の動向 小テスト実施		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障の類型を把握し、それぞれの代表的国家の制度構築について説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	諸外国における社会保障制度		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障と民間保険の特徴を把握し、民間保険の役割と商品内容について説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく 第12章の小テスト実施の準備をしておく
		各コマにおける授業予定	社会保障と民間保険 小テスト実施		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	少子高齢化が社会保障に与える影響と課題を理解するとともに、労働市場のしくみと今後の動向をについて説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	社会保障が当面する課題		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会福祉制度の概略について説明できるようになる。	指定テキスト プロジェクター	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく 第10・11章の小テスト実施の準備をしておく
		各コマにおける授業予定	社会福祉制度 小テスト実施		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	後期講義内容の理解度について計測し、学習到達点について説明できるようになる。	指定テキスト プロジェクター	配布済プリント全てについて整理の上理解しておく
		各コマにおける授業予定	後期のまとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	福祉マネジメント演習Ⅱ(応用)		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	3年　地域福祉専攻		学期及び曜時限	前期　月曜4限	教室名	1201教室
担当教員	小松　教	実務経験とその関連資格	精神保健福祉センターで相談員として勤務経験あり。精神保健福祉士			

《授業科目における学習内容》

学外におけるイベント企画を通じて、人・モノ・金・情報・時間の活用術を実践的に習得する。

《成績評価の方法と基準》

平常点10点(授業貢献度)、出席点20点、定期テスト70点(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

組織心理学 見るだけノート(宝島社)、ビジネスフレームワーク 見るだけノート(宝島社)

《授業外における学習方法》

グループで活動する際に、人・モノ・金・情報・時間の要素がどのように関連しているかを意識し、リーダーシップを発揮してみてください。

《履修に当たっての留意点》

福祉サービスの組織と経営にもつながる科目です。主体的に企画に参加し、実践的に学びを深めていきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	人・モノ・金・情報・時間の5つの要素を基本に置いたマネジメントについて説明できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション～マネジメントの振り返り～		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	前期学外活動の概要を把握し、役割分担ができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション～イベント企画の概要～		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動計画が立案できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	企業との連携活動の計画		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動計画が立案できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	企業との連携活動の計画		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動の準備ができるようになる	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	企業との連携活動の準備		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動の準備ができるようになる	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	企業との連携活動の準備		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動の準備ができるようになる	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	企業との連携活動の準備		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動の準備ができるようになる	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	企業との連携活動の準備		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動の任せられたパートについて実践できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	企業との連携活動実践		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動の任せられたパートについて実践できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	企業との連携活動実践		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動の任せられたパートについて実践できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	企業との連携活動実践		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動の任せられたパートについて実践できるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	企業との連携活動実践		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動の評価ができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	企業との連携活動の評価		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動の改善を行い、次クールへ引き継ぐことができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	企業との連携活動の改善		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	人・モノ・金・情報・時間の要素を基本に置いた基本的なマネジメントができるようになる。	テキスト 配布資料	該当する章のテキストを読んでおく
		各コマにおける授業予定	総括		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	福祉マネジメント演習Ⅱ(応用)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	3年　地域福祉専攻	学期及び曜時限	後期	教室名	1201教室
担当教員	小松　教	実務経験とその関連資格	精神保健福祉センターで相談員として勤務経験あり。精神保健福祉士		

《授業科目における学習内容》

地域・企業との連携イベント企画を通じて、人・モノ・金・情報・時間の活用術を実践的に習得する。

《成績評価の方法と基準》

平常点10点(授業貢献度)、出席点20点、定期テスト70点(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

レジュメ配布

《授業外における学習方法》

グループで活動する際に、人・モノ・金・情報・時間の要素がどのように関連しているかを意識し、リーダーシップを発揮してみてください。

《履修に当たっての留意点》

福祉サービスの組織と経営にもつながる科目です。主体的に企画に参加し、実践的に学びを深めていきましょう。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	人・モノ・金・情報・時間の5つの要素を基本に置いたマネジメントについてソーシャルワーカーの観点から説明できるようになる。	配布資料	マネジメント理論を復習しておく。
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション～マネジメントの振り返り～		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	後期学外活動の概要を把握し、役割分担ができるようになる。	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	オリエンテーション～イベント企画の概要～		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域・企業との連携活動計画が立案できるようになる。	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域・企業との連携活動の計画		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域・企業との連携活動計画が立案できるようになる。	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域・企業との連携活動の計画		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域・企業との連携活動の準備ができるようになる	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域・企業との連携活動の準備		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域・企業との連携活動の準備ができるようになる	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域・企業との連携活動の準備		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	企業との連携活動の準備ができるようになる	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域・企業との連携活動の準備		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域・企業との連携活動の準備ができるようになる	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域・企業との連携活動の準備		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域・企業との連携活動の任せられたパートについて実践できるようになる。	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域・企業との連携活動実践		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域・企業との連携活動の任せられたパートについて実践できるようになる。	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域・企業との連携活動実践		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域・企業との連携活動の任せられたパートについて実践できるようになる。	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域・企業との連携活動実践		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域・企業との連携活動の任せられたパートについて実践できるようになる。	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域・企業との連携活動実践		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域・企業との連携活動の評価ができるようになる。	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域・企業との連携活動の評価		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域・企業との連携活動の改善を行い、次クールへ引き継ぐことができるようになる。	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域・企業の連携活動の改善		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	人・モノ・金・情報・時間の要素を基本に置いた基本的なマネジメントができるようになる。	配布資料	配布資料を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	総括		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	地域活動実践指導	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	3年 地域福祉専攻	学期及び曜時限	前期 月曜3限	教室名	1201教室
担当教員	小松 教	実務経験とその関連資格	精神保健福祉センターで相談員として勤務経験あり。精神保健福祉士		

《授業科目における学習内容》

6W3Hを盛り込んだ活動計画書を作成できるようになる。
企画力、マネジメント力が向上できる。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 10点　　出席点 20点　　定期テスト 70点　(100点満点)
ボランティア活動に必要な知識・技術の習得度合いについて評価する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

先輩学生の地域活動計画書および活動報告書
随時、講義にてレジュメを配布

《授業外における学習方法》

昨年企画した活動の振り返りをしておく。

《履修に当たっての留意点》

PDCAサイクルについて復習しておきましょう。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	6W3Hを盛り込んだ計画書が作成できるようになる。	PC/計画書	イベントの計画書を作成する
		各コマにおける授業予定	個別の地域活動、ボランティア活動企画		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	立案した計画をプレゼンできるようになる。	PC/プロジェクター	計画をスライドにまとめる
		各コマにおける授業予定	地域活動の活動計画の発表		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動の企画立案ができるようになる。	PC/プロジェクター	役割を決めておく
		各コマにおける授業予定	地域活動準備		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動の企画立案ができるようになる。	準備物品各種	物品を揃える
		各コマにおける授業予定	地域活動実践		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	過去の企画と比較し、改善案を見出すことができるようになる。	PC/プロジェクター 活動画像	活動当日の自身の行動を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	地域活動の振り返り		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	6W3Hを盛り込んだ計画書が作成できるようになる。	PC/計画書	イベントの計画書を作成する
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動企画実践 （コーディネート、ブローキング機能）		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	立案した計画をプレゼンできるようになる。	PC/プロジェクター	計画をスライドにまとめる
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動企画実践 （コーディネート、プレゼンテーション機能）		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	企画立案ができるようになる。	PC/プロジェクター	役割を決めておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動企画実践 （コーディネート、ブローキング機能）		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	企画立案ができるようになる。	PC/プロジェクター その他準備物品各種	物品を揃える
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動企画実践 （コーディネート、ブローキング機能）		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	過去の企画と比較し、改善案を見出すことができるようになる。	PC/計画書	活動当日の自身の行動を振り返っておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動企画実践 （コーディネート、ブローキング機能）		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	6W3Hを盛り込んだ計画書が作成できるようになる。	PC/プロジェクター	自身が立案したい課外活動の計画書を作成する
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動企画実践 （コーディネート、ブローキング機能）		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	立案した計画をプレゼンできるようになる。	PC/プロジェクター	計画をスライドにまとめる
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動企画実践 （コーディネート、プレゼンテーション機能）		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの活動内容をまとめ、分析できるようになる。	PC/計画書	役割を決めておく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動企画実践 （コーディネート、ブローキング機能）		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	これまでの活動内容をまとめ、分析できるようになる。	PC/プロジェクター	物品を揃える
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーク機能向上のための地域活動企画実践 （コーディネート、ブローキング機能）		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	振り返りを通じて、PDCAサイクルの活用の意義を理解できるようになる。	PC/プロジェクター	計画をスライドにまとめる
		各コマにおける授業予定	振り返り		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	社会保障		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時限	前期　火曜3限	教室名	1202教室
担当教員	今井　孝司	実務経験とその関連資格	龍谷大学大学院経済学研究科にて修士を取得。修士論文題名:「台湾の高齢者福祉」論で修士を取得。			

《授業科目における学習内容》

まず生活における「リスク」という概念を理解し、社会経済上に発生するぞれぞれの「リスク」について、社会保障はどのように構築されてきたか、現代社会においてはどのように機能しているのかを学習する。次にわが国で施行されている5つの社会保険のうち、年金保険の詳細について学習する。

《成績評価の方法と基準》

1. 定期試験:70　%
2. 小テスト・授業態度:10%
3. 出席評価点:20%

《使用教材(教科書)及び参考図書》

教科書:最新・社会福祉士養成講座　社会保障　中央法規出版

《授業外における学習方法》

少子・高齢社会の進行により発生する問題点をとり上げた新聞・ネットニュースなどの情報にたえず留意しておくこと。必要と思われる事項については切り抜き・スクラップ、またはタブレットやコンピュータ上に専用のファイルを作成し、保存・管理をしておくことが望まれる。

《履修に当たっての留意点》

社会保障は社会福祉領域の中でも経済学的要素が強い科目です。授業内容は社会保障の根底から講義しますが、ここで得た知識は国家試験の出題について対応できる実力が形成されるものです。授業内容は難しく感じるかも知れませんが、しっかりついてきてください。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	受講生の社会的雑学および好奇心の計測を実施し、社会経済・文化を広げることができるようになる。	配布プリント	テキストを一読しておく
		各コマにおける授業予定	社会経済・文化に関するクイズの実施		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	福祉国家から地域福祉へ移行していった背景を理解し、社会保障における再分配の意義と類別、社会保障の領域について説明できるようになる。	指定テキスト	前回配布プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	ライフサイクルと社会保障制度		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障はどのような制度によって担保されているか、実施されるかを理解し、説明できるようになる。	指定テキスト	前回配布プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	社会保障の理念と機能		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障(再分配)の方法は社会民族と歴史によって異なる。国家試験で対象となる6か国に関してその概要を理解し、説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく 第1章の小テスト実施の準備をしておく
		各コマにおける授業予定	欧米における社会保障の歴史的展開 内容の小テスト実施		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	明治期以降の窮民救済制度と社会保険法案化の成立、戦後社会保障制度構築過程について、社会経済背景とともに理解し、説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	日本における社会保障の歴史的展開		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	税を財源に実施される社会扶助、保険料を財源とする社会保険についてそれぞれの給付方法を理解し、説明できるようになる。	指定テキスト	前回配布プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく 第2章の小テスト実施の準備をしておく
		各コマにおける授業予定	社会保障の体系 内容の小テスト実施		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保険の経済連帯範囲と制度設計、社会扶助に包括される社会福祉と手当の種別を理解し、説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	社会保険・社会扶助の構造		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障給付費と社会支出の算出方法の理解とどの分野に多くの財源が使われているか説明できるようになり、少子高齢社会の問題を再認識できる。	指定テキスト 社人研データ プロジェクター	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく 第3章の小テスト実施の準備をしておく
		各コマにおける授業予定	社会保障の費用・財源 内容の小テスト実施		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	社会保障制度、労働基準法なき資本主義むき出しの社会で生きることのリスクと、経済成長と地域・身分格差を認識し、説明できるようになる。	DVD再生機材 プロジェクター	テキスト第4章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ドキュメンタリー作品『女工哀歌』鑑賞		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	年金保険制度成立の社会背景、各制度加入者の属性、二階・三階建てとなっている構造を理解し、説明できるようになる。	指定テキスト	前回配布プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく 第4章の小テスト実施の準備をしておく
		各コマにおける授業予定	年金保険制度の沿革 内容の小テスト実施		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	国民年金の沿革と老齢基礎年金制度について理解し、説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	国民年金　その1		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	障害基礎年金と遺族基礎年金について理解し、説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	国民年金　その2		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	労働者と被用者の識別と、年金制度においてなぜ給与生活者が優遇されてきたのかを理解し、説明できるようになる。	指定テキスト	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく
		各コマにおける授業予定	厚生年金		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	少子高齢社会の進行から議論されている制度改正について理解し、説明できるようになる。	指定テキスト プロジェクター	配布済プリントについて今回授業範囲の大枠を理解しておく 第5章の小テスト実施の準備をしておく
		各コマにおける授業予定	年金保険制度をめぐる最近の動向 内容の小テスト実施		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	前期講義内容の理解度について計測し、学んできた内容を説明できるようになる。		配布済プリント全てについて整理の上理解しておく
		各コマにおける授業予定	前期のまとめ		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義演習
科目名	卒業研究	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30 (1) 時間(単位)
対象学年	3年	学期及び曜時限	後期	教室名	大阪ハイテクPCルーム
担当教員	木寺 由美	実務経験とその関連資格			

《授業科目における学習内容》

卒業研究の流れを理解し、研究計画の立案ができるようになる。
先行文献から、研究の作法及び、論文の組み立て方を理解することができる。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業貢献度) 10点　　出席点 20点　　定期テスト 70点　(100点満点)
研究の進め方の理解と、研究計画の立案能力についてを評価する

《使用教材(教科書)及び参考図書》

Google Scholar、CiNii
必要に応じ、講義内で紹介

《授業外における学習方法》

自分の関心があるテーマについての、文献や事例などの資料を集め、読む

《履修に当たっての留意点》

研究テーマを確立していく流れとして、大きなテーマから入っていった場合、個々の問題にいきつかなかったり、新しい知見を得るということが難しかったりします。日常生活や普段の学習のなかでの身近な疑問から、テーマを絞っていくことをおすすめします。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究の意義・目的を理解し、グループ研究への意識を高めることができるようになる。	レジュメ、PC、プロジェクター	先輩が執筆した論文集を読む。
		各コマにおける授業予定	本校の卒業研究のあり方についての講義		
第2回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	先行研究から卒業研究の全体像を把握できるようになるる。	卒業生の論文集	先輩が執筆した論文集を読む。
		各コマにおける授業予定	卒業生の研究を振り返り、その成果や先駆性について説明する。		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	卒業研究の具体的な進め方について理解し、論文作成までの流れをイメージできるようになる。	レジュメ、PC、プロジェクター	先輩が執筆した論文集を読む。
		各コマにおける授業予定	卒業研究の進め方と、作法についての講義		
第4回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	日常感じている疑問を、研究を通じて証明したい事象へと変換できるようになる。	模造紙、マジックペン	日常生活における疑問をノートにまとめる。
		各コマにおける授業予定	テーマ設定についてのディスカッション		
第5回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	自身が関心のあるテーマに関連する文献を検索できるようになる。	PC、文献検索サイト(Google Scholar、CiNii)	Google Scholar、CiNiiでの文献検索
		各コマにおける授業予定	テーマに沿った先行文献を検索するための演習		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	量的研究・質的研究について理解し、説明できるようになる。	レジュメ、PC、プロジェクター	検索した文献を読み、要約する。
		各コマにおける授業予定	研究方法の講義（量的研究・質的研究について）		
第7回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループ内でディスカッションを行いながら、研究への取り組み方について考えることができるようになる。	レジュメ、模造紙、マジックペン	量的研究・質的研究について復習する。
		各コマにおける授業予定	グループ演習①～テーマ設定～ グループ研究のテーマを確定する。		
第8回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	集めた先行文献を整理・管理することができるようになる。	PC、Excel	検索した文献を読み、要約する。
		各コマにおける授業予定	グループ演習②～文献検索その1～ テーマに沿った文献を検索し、各文献を要約しまとめる。		
第9回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	調査の準備ができるようになる。	PC、Excel、ワード	先行文献を読み込む。
		各コマにおける授業予定	グループ演習③～文献検索その2～ 軸となる先行文献を定め、調査準備を行う。		
第10回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	調査の一連の流れを把握し、実践できるようになる。	アンケート用紙 インタビューガイド ICレコーダー	グループ内で予備調査の実施
		各コマにおける授業予定	グループ演習④～調査実施～ アンケート調査、インタビュー調査の実施		
第11回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	調査データの管理ができるようになる。	PC、Excel	分析方法を予習する。
		各コマにおける授業予定	グループ演習⑤～データ入力～ 集計、逐語録の作成		
第12回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	量的研究においては単純集計からの分析、量的研究においては、カテゴリー化を用いた分析ができるようになる。	PC、Excel	分析方法を復習する。
		各コマにおける授業予定	グループ演習⑥～分析～ 集計、逐語録のデータをもとに分析を行う。		
第13回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	客観的データを元に結果を導き出し、考察を深めることができるようになる。	PC、Excel	分析方法を復習する。
		各コマにおける授業予定	グループ演習⑦～結果と考察～ 得られた結果から考察を行う。		
第14回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	グループ研究の発表準備ができるようになる。	PC、Excel、パワーポイント	発表準備と発表練習
		各コマにおける授業予定	グループ演習⑧～発表スライドの作成～ グループ研究の内容をパワーポイントのスライドにまとめ、発表準備をすすめる。		
第15回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	テーマ設定から研究発表までの一連の流れを理解し、実践することができるようになる。	レジュメ、PC、パワーポイント、プロジェクター	グループごとでの振り返り
		各コマにおける授業予定	グループ演習⑨～研究発表～ グループごとに研究発表を行う。		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科		科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	児童・家庭福祉		必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(2)　時間(単位)
対象学年	3年		学期及び曜時限	後期	教室名	1204教室
担当教員	峪口　蔵人	実務経験とその関連資格	NPO法人の代表・社会福祉法人の理事長を務める。以前は総合病院にて医療ソーシャルワーカー、デイサービスセンターやケアハウスにて生活相談員として勤務。社会福祉士・精神保健福祉士・介護支援専門員・幼稚園教諭・保育士を保有			

《授業科目における学習内容》

①子どもの特性について、発達心理学的視点から学ぶ。②児童福祉の歴史と子どもの権利保障の歩みを概観し、児童家庭福祉の理念を学ぶ。③今日の児童家庭福祉問題を取り上げ、児童家庭福祉ニーズとサービスについて考察する。④児童家庭福祉の法体系、実施機関、国や自治体が策定・推進している各種の施策について学ぶ。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業態度・小テスト等)10点　出席点20点　定期試験70点　(100点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

『最新・社会福祉士養成講座③児童・家庭福祉 第2版』 中央法規出版

《授業外における学習方法》

児童家庭に関する社会問題(例えば、児童虐待や非行問題、保育所の待機児童問題等々)について関心を持ち、積極的に新聞やニュースを見聞きし、家族や友人と話し合ってほしい。関連資料や文献等は随時紹介していきたい。

《履修に当たっての留意点》

本授業では、子どもと家庭の福祉について、ニーズとサービスという視点から、皆で意見を出し合いながら考察する機会をもちたい。その折には、一人ひとりが自分の子ども時代を振り返ったり、現在や未来をみつめながら、子どもの真のニーズや最善の利益とは何かについて考えてほしい。また、国家試験対策に直結する基本事項を押さえていくので、受験へのモチベーションを高め、日々、学習の積み重ねを実践していってほしい。

授業の方法			内容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	「児童家庭福祉論で何を学ぶか」をテーマとして、授業の目的や概要について理解し、説明できるようになる。	教科書・レジュメ	子どもに関わる事件や事故などについて、最近のニュースを調べて整理しておく
		各コマにおける授業予定	①児童家庭福祉とは？について、児童福祉から児童家庭福祉への変遷を踏まえて講義し、授業の概要、計画を伝える。②学生一人ひとりに子どもに対して抱いているイメージを問う。		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	「子どもを理解する視点」をテーマとして、主に発達心理学的視点から子どもの特性について学び、子どもに関する視野を拡げられる。	教科書・レジュメ	子どもに関わる事件や事故などについて、最近のニュースを調べて整理しておく。
		各コマにおける授業予定	子どもを「保護・育成される存在」「「関係性に生きる存在」「能動的・主体的存在」という3つの側面からとらえ、それぞれ発達心理学の理論等を紹介しながら考察し、子どもについての理解を深められる。		
第3回	講義演習形式	授業を通じての到達目標	子どもの「遊び」について、グループで話し合い、子どもにとっての遊びの意義を理解し、説明できるようになる。	教科書・レジュメ	グループワークの感想及び「遊び」は子どもの成長・発達にとってどのような意義があると思うか、についてレポートを書く。
		各コマにおける授業予定	グループに分かれ、それぞれ自分の子ども時代を思い出し、どんな遊びに夢中になっていたか、何が楽しかったかなど、遊びの思い出を話し合う。また、コンピューターゲームの功罪についても意見を出し合う。話し合いの後、各グループごとに発表し、質疑応答を交わす。		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	「児童観の変遷と児童福祉の歴史」をテーマとして学び、日本の児童福祉の発展に貢献した人物と業績について説明できるようになる。	教科書・レジュメ	本授業の復習として「確認問題」を課題とする。
		各コマにおける授業予定	児童福祉の歴史について、その時代的背景も含めて講義する。 児童福祉の発展に寄与した人物と業績を整理する。		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	「20世紀以降の子どもの権利保障の歩みと児童の権利に関する条約」をテーマとして、国際的な歩みについて学び、児童福祉から児童家庭福祉への展開を説明できるようになる。	教科書・レジュメ	第1回～第5回までの「復習問題」を課題とする。
		各コマにおける授業予定	主に、ジュネーブ宣言、児童権利宣言、児童の権利に関する条約について、その内容や意義、採択された当時の社会的背景等について講義する。とくに児童の権利に関する条約については、その主な条文についても教示し、今日の児童家庭福祉に及ぼした影響を考える。		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	「我が国の児童家庭福祉の理念」をテーマとして、児童家庭福祉の理念と定義を学び、自分なりの考えや意見を持つことができるようになる。	教科書・レジュメ	教科書の指定部分を読むこと。
		各コマにおける授業予定	日本国憲法における福祉に関わる3つの原則、児童福祉法第1条～第3条、児童憲章の前文を読み解き、今日の児童家庭福祉の理念について考察する。		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	「児童家庭福祉問題と子どものニーズについての考察」をテーマとしてグループで話し合い、発表する。 話し合いや発表、質疑応答を通して、自分の意見を述べることができる。	準備学習でまとめておいた子どもに関わる事件や事故のニュース等	グループワークを通して考えたこと、意見・感想についてのレポートを書く。
		各コマにおける授業予定	グループワークの導入として、第1回・第2回の授業で課題とした子どもに関わる事件や事故等のニュースを取り上げる。　発表の後、児童家庭問題の背景にある要因についてレポートを書く。		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	前回のグループワークを踏まえて、「子どものニーズ」について考察し、自分の意見をまとめられるようになる。	教科書・レジュメ配布資料	教科書の指定部分を読むこと。
		各コマにおける授業予定	学生一人ひとりに「子どものニーズ」(今、子どもは何を求めているだろうか？子どもにとって何が必要だと思うか？)について意見を聞く。子どものニーズについて生理的ニーズ、心理的ニーズ、社会的・文化的ニーズに分類して考察する。		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	「児童家庭福祉サービスの必要性と内容」をテーマとして、ニーズに対してサービスはどうあるべきかについて学び、意見を持つことができるようになる。	教科書・レジュメ	教科書の指定部分を読むこと。
		各コマにおける授業予定	子どものニーズに対応するためにはどのようなサービスが必要かを考える。　児童家庭福祉サービスの4領域について講義する。		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	「児童家庭福祉施策　(1)児童自立支援施策」をテーマとして学び、社会的養護の意義と種類を説明できるようになる。	教科書・レジュメ	第5回～第9回までの「復習問題」を課題とする。
		各コマにおける授業予定	要保護児童に対する社会的養護の種類と、自立支援という視点を重視した今日の児童家庭福祉施策の特徴について講義する。		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	「(2)児童虐待対策」をテーマとして学び、児童虐待への問題意識を深めるとともに、今後の課題を考察できるようになる。	教科書・レジュメ配布資料	教科書の指定部分を読むこと
		各コマにおける授業予定	①最近起こった児童虐待の事件を取り上げ、意見交換する。 ②児童虐待の実態と児童相談所の役割、児童虐待対応の仕組みについて講義する。 ③児童虐待防止法についての学習を通して法的規制の強化について考える。		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	「(3)ひとり親家庭福祉施策」をテーマとして学び、ひとり親家庭の親子のニーズや求められるサービスについて考察できるようになる。	教科書・レジュメ配布資料	教科書の指定部分を読むこと、及び第10回、第11回の「復習問題」を課題とする。
		各コマにおける授業予定	身近なニュースを取り上げてひとり親家庭の実態やDVとの関連等を把握するとともに、国や自治体の具体的施策について講義する。		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	「(4)障がい児福祉施策」をテーマとして学び、障がい児への支援のあり方について意見を持つことができるようになる。	教科書・レジュメ配布資料	教科書の指定部分を読むこと。
		各コマにおける授業予定	ノーマライゼーションの理念を押さえた上で、障がい児への施設サービスと在宅サービス、特別支援教育等について講義する。		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	「(5)保育施策・少子化対策」をテーマとして学び、多様な保育ニーズを知るとともに、サービスの現状と課題について考察できるようになる。	教科書・レジュメ配布資料	教科書の指定部分を読むこと、及び第12回～14回の「復習問題」を課題とする。
		各コマにおける授業予定	待機児童問題や「小1の壁」問題について意見を出し合う。 子ども・子育て関連3法の下での保育制度について講義する。		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	「児童家庭福祉の法体系と実施体制」をテーマとして、これまでに学習してきた法律や実施機関を整理し、説明できるようになる。	教科書・レジュメ	教科書の指定部分を読むこと。これまでの授業をしっかりと復習しておくこと。
		各コマにおける授業予定	児童福祉六法、及び児童相談所や児童福祉審議会等の実施機関、児童福祉施設について整理しながら講義する。 15回の授業の振り返りを実施する。		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	講義
科目名	ソーシャルワークの理論と方法(社会)	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	60 (4) 時間(単位)
対象学年	3年	学期及び曜時限	前期 木曜2・3限	教室名	1202教室
担当教員	丁 春燁／渕田 舞幸	実務経験とその関連資格	【丁】 精神科病院・NPO法人まちづくりサポートセンターにてケースワーカーとして従事 社会福祉士・精神保健福祉士を保有 【渕田】 地域包括支援センターにて社会福祉士として勤務。		

《授業科目における学習内容》

区の

《成績評価の方法と基準》

定期テスト 70点　　出席点 20点　　平常点(授業貢献度) 10点　　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

最新 社会福祉士養成講座 専門科目⑥ソーシャルワークの理論と方法(社会専門)　中央法規出版

《授業外における学習方法》

教科書以外の啓発図書などを読み、ソーシャルワークの知識や価値観などを深めていく。

《履修に当たっての留意点》

ボランティア実践とリンクをさせていき、ソーシャルワークの知識や価値を深めていく努力をしましょう。

授業の方法		内容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	講義形式	授業を通じての到達目標	ソーシャルワーカーが準ずる原理原則について説明できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワーカーが準ずる原則		
第2回	講義形式	授業を通じての到達目標	コミュニケーションと面接技術について理解できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	コミュニケーションと面接技術		
第3回	講義形式	授業を通じての到達目標	援助構造と援助関係を説明できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	援助構造と援助関係		
第4回	講義形式	授業を通じての到達目標	援助関係の質と自己覚知について説明できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	援助関係の質と自己覚知		
第5回	講義形式	授業を通じての到達目標	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発について説明できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルワークにおける社会資源の活用・調整・開発		

授業の方法		内　　容		使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	講義形式	授業を通じての到達目標	ソーシャルアクションの必要性と方法論について説明できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ソーシャルアクションの必要性と方法論		
第7回	講義形式	授業を通じての到達目標	ネットワークの形成（目的と意義）について説明できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ネットワークの形成（目的と意義）		
第8回	講義形式	授業を通じての到達目標	ネットワークの形成（方法論）について説明できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ネットワークの形成（方法論）		
第9回	講義形式	授業を通じての到達目標	アウトリーチの意義と目的を説明できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	アウトリーチの意義と目的		
第10回	講義形式	授業を通じての到達目標	潜在的ニーズへの働きかけについて、説明できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	潜在的ニーズへの働きかけ		
第11回	講義形式	授業を通じての到達目標	ジェネラリストソーシャルワークと生活モデルを説明できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ジェネラリストソーシャルワークと生活モデル		
第12回	講義形式	授業を通じての到達目標	状況の中の人について説明できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	状況の中の人		
第13回	講義形式	授業を通じての到達目標	人と環境の交互作用について説明できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	人と環境の交互作用		
第14回	講義形式	授業を通じての到達目標	収集した情報をもとに、ジェノグラムを作成できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	ジェノグラム（アセスメントツール）の意義		
第15回	講義形式	授業を通じての到達目標	収集した情報をもとに、エコマップを作成できるようになる。	テキスト	テキストの該当する章を読んでおく
		各コマにおける授業予定	エコマップ（アセスメントツール）の意義		

2026　年度 授業計画(シラバス)

学　科	社会福祉科	科目区分	専門分野	授業の方法	演習
科目名	コミュニティソーシャルワークスキル	必修/選択の別	必修	授業時数(単位数)	30　(1)　時間(単位)
対象学年	3年　地域福祉専攻	学期及び曜時限	後期	教室名	1204教室
担当教員	渕田　舞幸	実務経験とその関連資格	地域包括支援センターならびにデイサービスセンターにて相談員として勤務 社会福祉士・精神保健福祉士を保有		

《授業科目における学習内容》

さまざまな体験を通じて視野を広げ、コミュニティソーシャルワークスキルを身につける。
考える力や発表能力を養い、企画力や自発性を引き出す。

《成績評価の方法と基準》

平常点(授業態度) 10点　　出席点 20点　　定期テスト 70点　(100点満点)

《使用教材(教科書)及び参考図書》

レジュメ、活動報告

《授業外における学習方法》

さまざまなボランティアに参加してみる　関心を持ったテーマについて調べる

《履修に当たっての留意点》

できるだけ遅刻・欠席をしないこと。

授業の方法			内　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第1回	演習形式	授業を通じての到達目標	後期の授業終了後の成長した自分をイメージすることができるようになる	配布資料	
		各コマにおける授業予定	後期の抱負		
第2回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動実践を通じて学んだこと、感じたことを言語化できるようになる	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	地域活動実践振り返り		
第3回	演習形式	授業を通じての到達目標	映画を通じて、自身の福祉観を再認識できるようになる	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	福祉映画		
第4回	演習形式	授業を通じての到達目標	映画を通じて、自身の福祉観を再認識できるようになる	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	福祉映画		
第5回	演習形式	授業を通じての到達目標	海外研修を通じて学んだこと、感じたことを言語化できる	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	海外研修プログラムの振り返り		

授業の方法			内　　容	使用教材	授業以外での準備学習の具体的な内容
第6回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動実践と国家試験の学習を結びつけることができるようになる	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	コミュニティソーシャルワークと国家試験①		
第7回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域活動実践と国家試験の学習を結びつけることができるようになる	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	コミュニティソーシャルワークと国家試験②		
第8回	演習形式	授業を通じての到達目標	社会福祉士に必要な介護技術を理解できるようになる 社会福祉士が介護について学ぶ意義について考えを述べることができるようになる	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	介護の日にちなんで		
第9回	演習形式	授業を通じての到達目標	障害者の抱える生活の困難さな、望んでいることを認識できるようになる	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	障害者週間にちなんで		
第10回	演習形式	授業を通じての到達目標	災害ソーシャルワークの理解を深めることができるようになる	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	災害を考える①		
第11回	演習形式	授業を通じての到達目標	災害ソーシャルワークの理解を深め、その必要性について説明できるようになる。	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	災害を考える②		
第12回	演習形式	授業を通じての到達目標	コミュニティソーシャルワークについて自身の考えを述べることができるようになる。	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	社会福祉協議会特別講義 ～コミュニティソーシャルワーカーの語りから～		
第13回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域の課題を指摘できるようになる。	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	街歩き（学校周辺の地域探索）①		
第14回	演習形式	授業を通じての到達目標	地域に存在する資源の掘り起こしができるようになる。	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	街歩き（学校周辺の地域探索）②		
第15回	演習形式	授業を通じての到達目標	現代社会に必要とされるコミュニティソーシャルワークとは何かを語ることができるようになる。	配布資料	配布資料を復習しておく
		各コマにおける授業予定	振り返り		